

真の教育者我が国士舘に期待する

国士舘大学楓教育会

会長 田代 和正

世界中を席卷させた新型コロナウイルス感染症は、パンデミックが宣言され各国は国を閉じ世界経済は恐慌的状况に入っています。国士舘大学においても日常の学園生活が一変し、非常事態としてオンライン授業やテレワークにより、新たな学びに取り組んでいると思います。日常とは非常に備えての準備の時です。従って、今正にこの非常事態は重要な学びの時ではないでしょうか。

さて、国士舘大学の皆さんが目指している教師には、さまざまな力が要求されます。集団をまとめ、組織を機能させる力、学力形成を保障するために授業を行う力、子供の豊かな心を育てるために適切な支援を行う力。加えて、学級や子供の不測の事態に備えて対応する力なども必要になってきます。

近年の教育現場では、「子供と教師は平等の立場である」といった風潮がもてはやされてきました。「指導」「勉強」という言葉が影を潜め、「支援」「学習」という言葉がとって代わっています。子供の活動に重点がおかれ、教師の指導力が見えない授業がよい授業と言われています。しかし、はたしてそれだけでは子供たちの学ぶ意欲をかき立て、学校生活を充実させてきたかと問われれば、疑問が残ると言わざるを得ません。

教師と自分とを対等な立場に置き、教師の指導を批判し、小ばかにする態度の子供を注意するどころか、親しまれていると感じ、子供と同じように交わっている教師の話もよく耳にします。学校という教育の場においては、教師は教える者で子供は教わる者です。授業になれば子供の前に立って授業を主導しなくてはなりません。子供が過ちをおかせば、叱ったり注意したりして指導しなくてはなりません。子供も大人も、同じ人間としては平等です。しかし、教育という行為の中では、知識や経験に長けた大人(教師)が未熟な子供を教え導かなくては、教育は成り立ちません。子供に寄り添い、時に強引と思われる指導もしながら学級をまとめ、子供をよりよい方向に教え導くのが真の教師の役割です。そのために必要なのが「指導者」「経営者」「支援者」「ムードメーカー」「危機管理者」としての資質です。

教職を目指す皆さんは、国士舘大学で学んだ「誠意」「勤労」「見識」「気魄」の涵養を、教育理念として兼ね備え、真の教育者として、これからの日本の教育に貢献することを期待します。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

楓教育会だより「活學」第4号発行に寄せて

学長 佐藤 圭一

令和元年7月に発刊された楓教育会だより「活學」は1年を待たずして、早、第4号を迎えることになりました。日頃の指導に加えて、教職を志す学生達に的確な情報が提供され、そして将来に悔恨を残さないための更なる奮起を促す愛情に満ちた「活學」を継続的に刊行される楓教育会の先生方のご尽力に、深甚なる感謝と共に敬意を表します。

さて、令和2年は新型コロナウイルスの世界規模での蔓延という災禍の中で始まりました。命を守るための感染拡大防止の一環として、本学でもオンライン授業やテレワークという未知の領域に立ち入る

こととなり、不安を抱えての授業開始となりましたが、その不安は順調な経過と共に払拭されております。むしろ、ICTが発達した今日、それらの可能性・利便性を皆が実感でき、教育機関における無限の可能性すら識るところとなりました。リアルタイム型授業では、レンズを通して、個々の学生との“対面による”丁寧な質疑応答や丁々発止の遣り取りを受講生はこれまで以上に真剣に聞き入っています。オンデマンド型授業は、集中できる時間を自主的に選択し、反復操作により問題点や疑問点の把握に供しています。更に注目したいのは、対人関係に悩みを持つ学生、精神的・心的トラブルを抱えている学生にとっての遠隔授業は、遮蔽物や“重荷”を除去する効能の他にも、“限られた空間”によって悩みを臆せず語れる効果をも確認できるのです。

とはいえ、勿論、オンライン授業が万能というわけではありません。「世の中に幾ばくかの良き価値を遺すことが、人としてこの世に生を受けた意味である」とするならば、そうした崇高な使命を抱く礎こそ教育であり、児童・生徒・学生達は実体験を通じて、率先垂範する教員・教育者にその鑑を見出すことは時代を超越した普遍性を持つものです。そのことは低学年であればある程に顕在化しています。「志」「夢」「感動」「感謝」…。共通する「人のため、社会のため、世のため」に生きるといった利他の心は、正に国士館建学の精神に通底するものです。教職を志す皆様が、“変わらぬ教育と、新しい教育”とを修得し、児童・生徒達の範として、尽力されることを願っています。

.....

同窓会会長あいさつ

国士館大学同窓会
会長 坂本 勝矢

日頃より格別のご協力をいただき、ありがとうございます。

楓教育会会長初め、皆様方におかれましては、益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスも峠を越したかに見えますが、まだまだ予断を許されるものではないと思っています。今後も第二弾、第三弾が来るものと思ひ、私達国民ひとりひとりが、心して立ち向かわなくてはならない大きな試練ではないでしょうか。

この新型コロナウイルスの影響を受け、楓教育会もいろいろな教育方針を打ち立て、立ち向かわなくてはならない現状だったと思います。その点楓教育会は「教職支援コース」及び「Zoomによるオンライン面接」をいち早く取り入れる方向にあると聞き、大いに期待するところであります。

また、長年にわたって教職支援に携わってこられた諸先生方の努力には、心より感謝申し上げます。国士館大学も今や総合大学になりましたが、当初の理念は教育者育成が大きな目的であったと思います。その成果を全国に轟かせたわけではありますが、昨今は卒業生の高齢化が進み減少の一途をたどっているのが残念ながら現状だと思ひます。

だが楓教育会の長年の活躍により教職採用合格者が徐々に増えてきていると聞き及んでいます。今年は178名とのこと誠にありがとうございます。その内訳も体育学部はもちろんですが文学部、理工学部、政経学部等、幅広い合格者には驚いております、これぞ総合大学の力ではないでしょうか。

これも、数多くの先人達の長年の努力の結晶だと思ひます、今後は新型コロナウイルスを考慮した、より一層のご協力をお願いします。

最後になりましたが、これからも全国同窓会が全面的に惜しまない協力をいたしますので、今後の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

教員採用選考試験に向けて（特別寄稿）

教育論作文の書き方（東京都版）

国士舘大学楓教育会
会長 田代 和正

学生の皆さん、教員採用選考試験に向けて、頑張っておられるものと思います。そこで、東京都教育委員会を事例として、東京都が求める教師像、東京都の教員が身に付けるべき4つの力、押さえておくべき法的根拠を踏まえた合格できる教育論作文の書き方について、皆さんと一緒に考えてみましょう。

最初に、東京都教育委員会が求めている教師像とは！ ①教育に対する熱意と使命感をもつ教師 ②豊かな人間性と思いやりのある教師 ③子どもの良さや可能性を引き出し伸ばすことができる教師 ④組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高め合う教師 を掲げています（HPより）。

次に、東京都の教員が身に付けるべき4つの力とは！ ①学習指導力 ②生活指導力・進路指導力 ③外部との連携・折衝力 ④学校運営力・組織貢献力 を掲げています（HPより）。

さらに、論作文を支える、押さえておくべき法的根拠とは！ (1)教育基本法「教育の目的」：第1条「教育は人格完成…」第6条②「学校においては教育の目標…」 (2)学校教育法「教育の目的」：第21条①「学校内における社会的…」～第21条⑩「職業に…」 (3)学校教育法「学力の3要素」※これからの評価に関わる 第30条、②「…必要な思考力、判断力、表現力その他の…」 (4)学習指導要領改訂の基本的な考え方 ①確かな学力②豊かな人間性③健康と体力 を掲げています（HPより）。

以上のことを踏まえて、合格論文の書き方について、説明します。教育論文とは、「与えられたテーマに対して、そのテーマを正面から捉え、限られた字数の中で自分の言葉で論理的に表現した文章」のことを言います。教育論作文を通して、教師としての資質・能力、即戦力の有無を評価しています。

それでは、具体的に進めましょう。最初に、教育論作文構成上の注意事項について、考えましょう。

(1) 選択した問題の番号に○	(5) 「学習指導要領」に基づく
(2) 指定された字数に注意	(6) 学校が行う教育活動とは
(3) 問題文に示された条件を漏らさない	(7) 問題のキーワードで一貫性のある論述で
(4) 広い視野に立って論文を構成	(8) 教員を志す者が書く文章として適切に

次に、教育論作文の採点者を意識する①、②について、考えましょう。

教育論作文の採点者を意識する① (1) 誤字脱字、とめ、はね、はらいに注意 (2) 指定字数を守る(1050字以内910字を超える) ※漢字は舛目いっぱい、ひらがなは8割の大きさ (3) 課題把握で各答申の(根拠)の指摘 (4) 生徒と直接接した経験を述べる (5) 自分の考えを述べる	教育論作文の採点者を意識する② (6) 教師としての実践を広い視野で述べる (7) 3つの視点をもらさず述べる ①教科指導の内容と方法…個人 ②生徒指導の内容と方法…同僚と協働 ③保護者・地域との連携…地域と連携 (8) 論理的表現力・表記が適切である (9) 論文全体に一貫性がある (10) 教師としてふさわしい文章
--	---

それでは、合格できる論作文を書くためには、どのような事前準備をしたらよいか、考えましょう。

演習（その1）：生徒が生きていく「これからの社会」はどんな社会と捉えるか。

演習（その2）：その社会で生きていくためにあなたは教師としてどんな「生徒像」を目指すか

演習（その3）：あなたがこれまで生徒と直接接してきた経験をあげ、その経験から何を学んだか

演習（その4）：その経験を生かし、これから社会を生きぬく生徒を育成するために教師としてどのように指導していくか。（学習 指導要領に即して）

事前準備を踏まえて、つまり、正対、柱立てと合格できる教育論作文の構成について、示します。

基本である字数は、910字を超えることは、26行以上、1050字以内は30行以内です。従って、26行から30行の範囲内となります。守りましょう。字数は行単位で数えます。改行して余白があってもその余白は字数に入ります。具体的な教育論作文の構成は、三段論法で書きましょう！

<p>A 具体的な方策を2つ上げて述べる (315字以内)</p>	<p>○序論（字数3割：9行） 315字 ※起・承・転・結 (1)序論・・・課題に対して自分の考えを書く(9行) 【起】課題の重要性を述べる(2行) ※例「これからの未来を背負う生徒は…」 (文部科学省、東京都教育委員会の時代把握) 【承】課題が重要な理由を述べる(2行) ※例「この課題が…何故重要なのか社会背景(理由)」(各答申に基づく(OECD、PISA、中教審、都教育ビジョン)) 【転】生徒の実態を述べる(3行) ※例「しかしながら、生徒は…」(生徒を接した経験を通して成果と課題) ※ここがポイントです！ 【結】自分の考えを述べる(2行)・2つの方策を述べる ※例「したがって、これらの学校では…と考える。」</p>
<p>B 問題意識やまとめを含めて述べる (735字以内)</p>	<p>○本論（字数6割：18行）・・・630字 ※四段構成 (2)本論・・・解決策を述べる(18行) 【第一段落】校種、教科を書く(2行) ※例「その上に立って私は、○○教師として新学習指導要領に即して…」 【第二段落】教科領域から取組内容・方法(7行) ※例「第一に、教科指導を通して学習意欲を引き出す…」・1本目の方策 【第三段落】教科領域以外から取組内容・方法(7行) ※例「第二に、学級経営を通して、…」・2本目の方策 【第四段落】課題返し(2行) ※例「このような指導を意図的、計画的に継続し実践して…できると確信する。」</p>
	<p>○結論（字数1割：3行）・・・105字※決意を述べる (3)結論・・・決意を述べる(3行) ※例「私は、子供の夢を実現させるために、一人一人の…そのため校長の指導を仰ぎ、他の教師と協力し、家庭、地域と連携しながら…教師になる決意である。」 論述の観点 ①東京都が求める教師像を踏まえる ②組織の一員として ③校長の経営方針に従って教育活動を行う決意 ④公教育としての国民の信託に答える ⑤教師としての自己研鑽を怠らない</p>

出典： 国土館大学楓教育会 田代和正会長、特別寄稿「合格できる教育論作文」一部参照
 「東京都教育委員会ホームページ」一部参照

教員採用選考試験—PDCAサイクルで「即戦力」を身に付けよう—

—筆記試験・論作文・面接の学習計画の立て方—

計画立案		教職・一般・専門教養	面接・論作文
8月	基礎力養成期	過去問の分析	受験する自治体の過去問題を解き、その「分析」を行う。分からないところは、参考書などで確認しながら、全領域をくまなく学ぼう。
9月			
10月			
11月	応用力伸長期	演習問題・復習の繰り返し	受験する自治体の出題傾向に合わせて、演習問題に合わせて、演習問題と復習を重ねる。問題集は1回やって終わりではなく、完璧に解けるまで何回も繰り返しましょう。
12月			
1月			
2月			
3月	直前完成期	模擬試験・最終仕上げ	何度も間違える問題を重点的に学習し直すなどして弱点を消しましょう。また、模擬試験等を受けて自分の実力を把握し、本番に向けて最終の仕上げを行いましょう。
4月			
5月			
6月			
7月			
8月	第1次教員採用選考試験		
8月	第2次教員採用選考試験		

「何を」やるべきか。「いつ」やるべきか。「どのように」やるべきか。学生や卒業生の皆さんの不安、悩み、学習方法の相談に、世田谷・多摩・町田各3キャンパスの教職支援室の先生方が待っています。

『月刊教員養成セミナー』2019年10月号P21「学習計画」より一部抜粋

(文責：楓教育会 理事長 坂本 徳雄)

特別寄稿

国士館 理事長 大澤英雄

楓教育会の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

日頃は教職に就く事を目指し、努力している学生達に種々ご指導・ご協力を賜わり、誠にありがとうございます。ごぞいます。

さて、今般の新型コロナウイルス感染拡大の状況は、60余年の我が教員生活においても経験のない、そして想像すらし得なかったことで、困惑しております。

国士館も大学、高等学校、中学校それぞれの卒業式、入学式を止む無く中止とせざるを得ませんでした。この数か月、日々変化する状況に法人を代表する立場の者として、断腸の想いで受け入れたこと、また、苦慮することも多くありましたが、常に学生と生徒を第一に思い、対応してきたつもりです。

大学では令和2年度の春季授業を全てオンライン授業で開催することをいち早く決定し、高等学校・中学校においても当面オンライン授業を導入し、課題提示による授業実施と致しました（高・中学校は既に6月1日学校再開）。

この自宅におけるオンライン授業環境整備の補助として、学園では全学生・生徒に対し、一律八万円の緊急給付金支給を5月上旬に決定し、対応致しました。

大学の昨年度進路状況は、皆さんのお力添えもありまして、200名近い学生（学部・院）が教職に就くことになったと聞いております。

今年度は、未曾有の厳しい状況に負けることなく、昨年より多くの学生が夢を叶えられますよう、引き続き皆様にもご支援を頂きたいところでございます。

今後ともよろしく願いいたします。

【編集後記】

国士館大学は、教師を目指す学生に対して、面接練習・研修会などを開催しています。

(1) 教員採用選考試験面接練習・研修会（教職課程運営センター・楓教育会共催）

本年度第1次教員採用選考試験に向けて、第2回面接研修会（6月20日）を企画していましたがコロナ感染拡大の影響を受け中止となりました。第3回（7月25日）、第4回面接・研修会（8月1日）はコロナ感染拡大のため延期し、8月13日（木）～14（金）に開催されました。

今後は、教職課程運営センター主催による赴任前実践力養成講座（12月19日）や令和4年度教員採用試験対策として、第1回面接研修会（2月13日）を開催する予定です。教職支援室では、メールやZoomによるオンライン面接や論作文等の支援・指導が行われています。

(2) 楓教育会は、創立者柴田徳次郎先生が示された開学の精神に賛同し、学生一人一人が教師になりたいという夢を実現できるよう全国の卒業生と連携を図り教員採用選考試験などに対してさまざまな教育支援活動を行っています。

①第1回役員会 令和2年 5月14日（木） 18時～ 世田谷教職支援室（書面議決）

②第18回楓教育会総会 令和2年6月13日（土）15時30分～柴田記念会館（書面議決）

③第2回役員会 令和2年11月26日（木）18時～ 世田谷（予定）

④第3回役員会 令和3年 2月27日（土）13時～ 世田谷（予定）